

信用金庫の定期積金の動向

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席調査役
とね かずゆき
刀襦 和之

(ポイント)

- 全国信用金庫の2013年度末の定期積金残高は、前期比0.3%減の4兆9,628億円となり、預金残高に占める割合も2003年度末の7.0%から3.8%にまで低下した。
- 定期積金口数は、前期比4.3%減の949万口となり、2期連続で1,000万口を下回った。
- 預金規模別の定期積金残高は、8階層で前期比増加した。2003年度末比でみると、全10階層で残高が10~40%弱減少しており、総じて規模の大きい階層ほど減少幅も大きい。
- 地区別の定期積金残高は、四国、北海道などの8地区で前期を上回った。2003年度末と比べると、四国（7.0%増）を除く10地区で25%超の減少となった。
- 預金残高に占める定期積金の割合は、「10%以上」の信用金庫が2003年度末の8.1%（25金庫）から2013年度末には0.3%（1金庫）に、「2%未満」の信用金庫が1.3%（4金庫）から6.7%（18金庫）に変化している。

1. 全国信用金庫の定期積金の動向

(1) 残高の推移

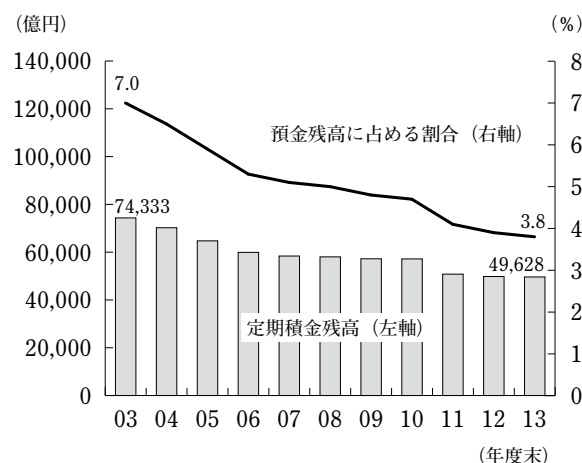
全国信用金庫の2013年度末の定期積金残高は、前期比176億円、0.3%減の4兆9,628億円となった（図表1）。

営業活動の生産性向上を主な目的に定期積金を効率化する動きが続いている。そのため、2003年度末（7兆4,333億円）と比較すると、2兆4,705億円、33.2%減となり、残高も5兆円を割り込んだ。

また、預金残高に占める割合も2003年度

末の7.0%から2013年度末には3.8%と、ほぼ半減している。

図表1 定期積金残高の推移



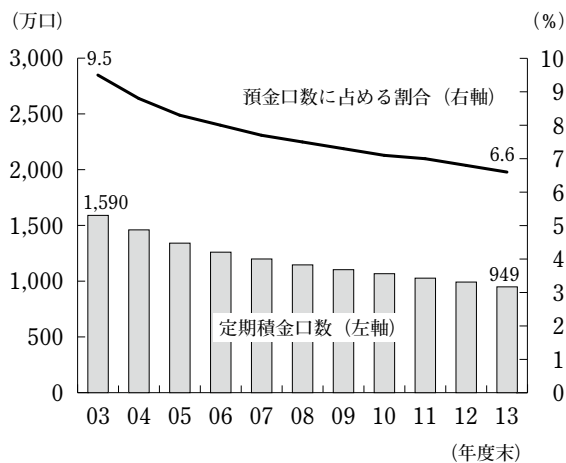
※本稿は、日本銀行『預金者別預金調査表』より作成している。

(2) 口数の推移

2013年度末の定期積金口数は、前期比43万口、4.3%減少の949万口と、2期連続で1,000万口の大台を下回った(図表2)。

2003年度末の口数と比較すると、641万口、40.3%減となり、残高・口数ともに減少が著しいことがうかがえる。預金口数に占める割合も、2003年度末の9.5%から2013年度末には6.6%にまで低下した。

図表2 定期積金口数の推移



2. 預金規模別の定期積金残高

2013年度末の預金規模別の定期積金残高は、「1,000億円以上1,500億円未満」「700億円未満」などの8階層で前期比増加した(図表3)。

2013年度末の預金残高に占める定期積金の割合をみると、「700億円未満」の5.6%に対し、「1兆5,000億円以上」が3.5%となるなど、総じて規模の大きい階層ほど割合は低い。

2003年度末比では、全10階層で2桁減少した。「700億円未満」の11.2%減から「1兆5,000億円以上」の38.7%減まで、総じて規模の大きい階層ほど減少幅が大きい。

3. 地区別の定期積金残高

2013年度末の地区別の定期積金残高は、四国が10.8%増となったほか、北海道(3.7%増)、九州北部(3.4%増)など8地区で前期比増加し、東京(5.4%減)など3地区で前期を下回った(図表4)。

預金残高に占める定期積金の割合を地区別

図表3 預金規模別の定期積金残高の推移

(単位：億円、%)

預金規模	03年度末	預金に占める割合	12年度末	預金に占める割合	13年度末	預金に占める割合	03年度末比		12年度末比	
							増減率	増減額	増減率	増減額
1兆5,000億円以上	22,009	7.0	13,937	3.7	13,479	3.5	△ 38.7	△ 8,530	△ 3.2	△ 457
1兆円以上	6,739	6.7	4,128	3.4	4,145	3.3	△ 38.4	△ 2,594	0.3	16
7,000億円以上	9,589	6.8	6,739	4.0	6,709	3.8	△ 30.0	△ 2,879	△ 0.4	△ 29
5,000億円以上	10,029	6.9	6,786	3.8	6,798	3.8	△ 32.2	△ 3,231	0.1	11
3,000億円以上	12,096	7.3	8,181	4.2	8,273	4.2	△ 31.6	△ 3,822	1.1	92
2,000億円以上	5,890	6.9	4,130	4.2	4,204	4.2	△ 28.6	△ 1,686	1.7	73
1,500億円以上	3,164	7.4	2,212	4.3	2,221	4.2	△ 29.8	△ 943	0.4	9
1,000億円以上	3,146	7.3	2,374	4.7	2,457	4.8	△ 21.9	△ 689	3.5	83
700億円以上	1,307	7.3	1,026	5.0	1,043	4.9	△ 20.1	△ 263	1.6	17
700億円未満	331	7.8	287	5.6	294	5.6	△ 11.2	△ 37	2.6	7
合計	74,333	7.0	49,805	3.9	49,628	3.8	△ 33.2	△ 24,705	△ 0.3	△ 176

(備考) 図表4とも他業態との合併等を考慮しない。

図表4 地区別の定期積金残高の推移

(単位：億円、%)

地区	03年度末	12年度末	13年度末	03年度末 比増減率	12年度末 比増減率
北海道	2,936	2,103	2,181	△ 25.7	3.7
東北	3,163	2,097	2,163	△ 31.6	3.1
東京	16,978	11,322	10,708	△ 36.9	△ 5.4
関東	12,270	8,023	8,095	△ 34.0	0.9
北陸	2,818	2,002	1,971	△ 30.0	△ 1.5
東海	17,218	11,973	11,973	△ 30.4	0.0
近畿	11,583	7,489	7,675	△ 33.7	2.4
中国	3,463	1,878	1,815	△ 47.5	△ 3.3
四国	889	858	951	7.0	10.8
九州北部	1,225	814	841	△ 31.3	3.4
南九州	1,726	1,203	1,203	△ 30.2	0.0
合計	74,333	49,805	49,628	△ 33.2	△ 0.3

(備考) 沖縄県は合計に含む。

にみると、北陸が5%を上回る一方で、近畿は2%台にとどまった。

2003年度末と比較すると、四国が7.0%増と唯一残高が増加したほかは、10地区で25%を超える減少幅であった。

4. 信用金庫別の定期積金残高

(1) 2003年度末との比較

2003年度末から2013年度末までの定期積金の増減状況は、27金庫で残高が、12金庫で口数が増加した。また、残高・口数ともに増加は8金庫だったのに対し、ともに減少した信用金庫は236金庫と全体のほぼ9割に達する。

(2) 預金残高に占める割合

2013年度末の預金残高に占める定期積金の割合は、①4%未満が115金庫（構成比43.0%）、②4%以上6%未満は112金庫（41.9%）、③6%以上は40金庫（14.9%）となった（図表5）。

2003年度末の割合と比べると、「10%以上」の信用金庫が8.1%（25金庫）から2013年度末には0.3%（1金庫）に減少した。その一方で、「2%未満」の信用金庫は1.3%（4金庫）から6.7%（18金庫）に増加している。

図表5 定期積金残高の割合の変化

